西光寺だより

第二十二号　平成二十四年六月一日発行

六月、雨に濡れたアジサイの花が色鮮やかに咲く季節となりました。アジサイの花は土の酸度がひとつの要因となって花色が変化し、アルカリ性で赤っぽく、酸性で青っぽくなるとされているようです。

降りそそぐ雨のなか目に映るその青や赤や紫の花の姿は、本当に美しい佇まいですね。なんだか一日中、ぼんやりと眺めていたくなる、アジサイはそんなひとときを与えてくれる花のような気がします。

しかしながら、平安時代の文学において梅雨の風物詩ともいえるこの花のことを語っているものはひとつもないそうです。「源氏物語」や「枕草子」にも使われていないのは不思議な感じがしますが、色が変わることが心の変節と結び付けられ、道徳的でないとみなされていたともいわれています。

現代では、六月を楽しませてくれる花として喜ばれていますが、平安時代には好ましく思われていなかったようですね。

わたくしたちは、同じ花を見てもそのときそのときによって、美しく見えたり、忌み嫌ったりします。美しいと思いたいのに思えない、そんなときもあるかもしれません。

見るものは同じなのに、見る側の心によって感じ方が違ってくるのですね。

釈尊は、そのような人間の心を冷静にみつめられました。そして、苦しみや楽しみをつくりだしている原因は私のほうにあり、私の心がつくりだしているということを見きわめられました。自分の思いや関心で世界が変わって見えてしまうということ。

今年のアジサイは皆様の目にはどのように映っているでしょうか。まずは、ありのままの心で感じてみてはいかがでしょうか。

●今月のことば●

「ものごとは心にもとづき、心を主とし、心によってつくり出される。もしも汚れた心で話したり行ったりするならば、苦しみはその人につき従う。車をひく（牛）の足跡に車輪がついて行くように。」

「ものごとは心にもとづき、心を主とし、心によってつくり出される。もしも清らかな心で話したり行ったりするならば、福楽はその人につき従う。影がそのからだから離れないように。」

（『真理のことば』ダンマパダ　中村　元訳）

これは、お釈迦さまの語ったといわれる詩が記されている「ダンマパダ」という原始仏典の中にある二つの詩です。第一章にこの二つの詩が対になって記され、汚れた心の場合と清らかな心の場合の二つの方向から見て説いています。

この詩をとおして、お釈迦さまがわたくしたちに伝えたかったことは何でしょうか？

汚れた心で話すならば、人に対しても傷つけたり、ののしったりする言葉となり、またそこから苦しみがはじまってしまいます。逆に、思いやりや優しさをもった心で話すならば、慕われ尊敬され、気持ちよく暮らすことが出来ることでしょう。

ですから、なによりも第一に心を清く正しくしなさい。そうすれば自ずと、言葉も清く正しくなり、行動も清く正しくなるのだよ。

釈尊は、そのように説かれているのです。

◆先月の報告◆

五月十二日（土）西光寺本堂にて摂津十二日講御消息披露法要を厳修いたしました。西光寺だよりや月参りなどでご案内させていただき約六十名の門信徒の方々が参詣して下さいました。

この法要は、織田信長の軍政に身命をささげて十一年に及んで戦い、浄土真宗の法燈を現世に伝えようとされた摂津国の先人達を偲び、皆様と共に浄土真宗のみ教えを伝えていく法要であります。西光寺におきましても、八年に一度のご縁に感謝しながら、歴代の本願寺ご門主様のお手紙（御消息）を皆様で聴聞させていただきました。

前々日の十日に役員・婦人会そして十二日講の講長・理事のもと、皆様で御座囲・高座の準備をし、幕張・境内本堂清掃を致しました。また婦人会による開扉・閉扉の仕方や歩き方、御消息をお守りする警護の方の歩き方、司会者の予行練習なども行い、皆様真剣に取り組んでおられる姿を拝見し心が引き締まる思いでありました。

本番当日は練習の成果もあり皆様堂々としたお姿で法要が進んで行きました。私自身八年前の記憶を探りながらの法要でしたが、皆様のお姿が大きな力になり無事終了する事が出来ました。

摂津十二日講御消息披露法要が今年の五月にまわってくることを知ってから、総代様をはじめ役員・婦人会の皆様方には大きな大きなお力をいただき本当にありがとうございました。そしてご参拝くださいました門信徒の方々、このようなご縁を結ばせて頂きありがとうございました。

摂津十二日講御消息披露法要

お手伝いいただいた役員・婦人会の皆様

✐あとがき✐

先月の中旬に、一晩を過ごすためお寺の駐車場にテントを張らせてほしいという青年が西光寺にやって来ました。彼は、埼玉からお兄さんのいる鹿児島まで自転車でひとり旅をしているそうです。

詳しい話はしておりませんが、もしかしたら旅をしている彼の目には、様々の事象が日常とは違って見えるのではないかなという気がふといたしました。そして、自分の心の見えなかった部分も。

五月の終わりころには鹿児島まで着く予定だと話していましたが、彼は無事に辿りつけたでしょうか。

一晩かぎりのご縁でしたが、なにか新しい風が入ってきたようでした。これからも頑張ってください。

合　掌

青年よ、頑張れ！

浄土真宗本願寺派　白毫山　西光寺
大阪府茨木市西河原一―七―二
電話　〇七二―六二二―四七九四
FAX　〇七二―六二二―九二九一
http://www.osaka-saikouji.net/